

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



カササギの森の上流域でみつかったウメバチソウの群落。一部を緑の地球環境センターに移植した。

Contents

- 立花先生を悼む P 2
- GEN20 周年記念シンポジウムのご案内 P 2
- 比良・馬が瀬で刺激的な間伐体験 P 3
- 夏のワーキングツアー報告 P 4～6

2011.11

142

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

立花先生を悼む

高見 邦雄 (GEN 事務局長)



2005年夏、南天門自然植物園で李向東さん(左)と。

悲しいお知らせです。緑の地球ネットワークの前代表で、名誉顧問の立花吉茂先生が、9月20日、逝去されました。近親者だけで22日にお見送りされたそうです。85歳でした。

立花先生なくして、いまの緑の地球ネットワークはありません。スタート時の緑の地球ネットワークは素人ばかりの集まりで、早晚行き詰まるのはまちがいにあったのです。1994年8月、先生は最初の専門家調査団に参加してください、1995年1月には崩壊の危機にあった緑の地球ネットワークの代表を引き受けてくださったのです。

大同の主要なプロジェクトは立花先生の発案と計画によるものです。「海外でこのような事業をやるためには、パイロットファームが不可欠です」という先生の意見で、1995年春から「環境林センター」に着手しました。私たちの協力事業がたんに木を植えるだけでなく、緑化についての基本的な考え方や技術的な内容をもつようになったのは、そのおかげです。

先生は、緑の地球ネットワークに参加するさいに1つの要求をだされました。「植物園をつくらないか。あなたたちが本気でそれをやるなら、自分も参加する」と。すぐにはその条件はありませんでしたが、先生は待ってくださいました。霊丘県南部に候補地をしばらく、調査を依頼したところ、現地のスタッフは自然林をみつめてきたのです。自動車では接近できない最後の村から、私たちの足で片道5時間もかかる山のうえでした。そこはまだ年若い林でした

が、そこから下った谷筋にはひと抱え以上の大きな樹木が茂っていました。ナラ、シナノキ、カエデなど落葉広葉樹の林です。先生の植物園への執念がもたらした大発見でした。

そこから遠くないところに1つのはげ山を確保しました。面積は86ha。いまの南天門自然植物園がそれです。先生は、そ

の役割を、4つにまとめました。1) 植物の遷移を見守り、この地方の緑化の道筋を突きとめる。2) 可能性のある植物を隣接地その他からも集め馴化する。3) 多種類の植物を育てることで、技術を高め、人材を育成する。4) 持続可能で多様性のある森林再生のモデルをつくる。

それから12年。先生の目標からまだまだ遠いのですが、その道を歩んでいるのはたしかでしょう。一帯ではみられないほど緑が濃くなり、そして「この一帯で植物の種類がいちばん多いの

はここです」といって、スタッフが標本づくりにとりこんでいます。農民の彼らが中国高等植物図鑑にかじりついて、かなりの正確さで種名を同定していますから、人も育ってきたといっているでしょう。

あの植物園を立花先生が最後にご覧になったのは2005年8月でした。それ以後も毎年夏にお誘いしましたが、体調不良その他で実現しませんでした。心残りです。

立花先生は、日本の将来をとっても心配していました。このままだと落後してしまうといっている。人の素質がだんだん衰えている、とみられたのでしょうか。3.11以後のもたつきぶりをみると、先生のもたれた危機感が私にもわかりま

す。緑の地球ネットワークのために、先生が最後にしてくださったのが、後任の代表に前中久行さんを口説くことでした。6月の会員総会の直前、「前中先生が、引き受けてくださいました」と電話で報告すると、立花先生はとてもよろこんでくださったのです。助けていただくばかりで、報いることのできなかったことをなさげに思います。

ご冥福をお祈りいたします。

参加者募集

緑の地球ネットワーク 20 周年記念シンポジウム

『地球環境と国際協力のために

わたしたちにできること』

来年1月、緑の地球ネットワークは20周年を迎えます。それを記念して、東京と北京でシンポジウムを開催します。大阪と大同では2013年に開催します。

●日時：2012年1月28日(土) 13時30分～16時30分

●会場：東大弥生講堂・一条ホール(東京メトロ南北線「東大前」駅)

●パネリスト

▼松井孝典さん(千葉工業大学惑星探査研究センター所長、東大名誉教授)

▼桜井尚武さん(日本大学教授、元日本森林学会会長)

▼高見邦雄さん(GEN 事務局長)

●コーディネーター

▼上田信さん(立教大学教授・GEN 世話人)

☆終了後、同会場にて懇親会をもちます。会費5,000円。参加ご希望の方は1月20日までにGEN事務所までお知らせください。

* * * * *

北京での記念行事は、2012年3月に予定しています。ご希望の方には、詳細が決まり次第お知らせしますので、GEN事務所までご一報ください。

年末カンパのお願い

GENはこの12月で活動をはじめてまる20年を迎えます。

中国山西省大同市で1992年から2011年春までに山林151か所(延べ)、小学校果樹園114か所(延べ)に植林をしました。苗木の本数は18,284千本、面積は5,725haになります。また独自の施設を6か所建設・維持してきました。

日本側で支えていただいたのは、スタート以来入会していただいた約2,170名のみなさん、数えきれない協力者の

個人・団体、助成団体等のみなさんです。あらためて多くのみなさんに支えられてこの活動を継続してこられたことに深く感謝いたします。

この20年間、活動を取りまく日本、中国の環境は大きく変化してきました。ここ数年GENの会員数、寄付金額は減少し始めていますが、なんとか挽回しなければなりません。今後はこれまで築いた基盤の上に、さらに多様な協力関係を発展させていきたいと思ひます。



これまでの成果をしっかりと中国側主体のものに定着させていくのも今後の大きな課題です。ひきつづき、みなさんのご協力で支えていただきますよう、お願いいたします。

なお、作業の都合上、郵便振替用紙を一律に同封しますが、最近ご協力いただいた方には重ねてのお願いではありません。ご了承ください。

報告 比良・馬が瀬で刺激的な間伐体験

宮本 敏幸 (GEN世話人)

10月23日、汗ばむような陽気のなか、NPO自然と緑の指導で比良・馬が瀬山で10人が参加して間伐体験をしました。また、午後からは楊梅の滝まで足をのびし、マイナスイオンでリフレッシュ。さわやかな1日を過ごしました。

NPO『自然と緑』は、活動の一環として比良山系馬が瀬国有林の管理をされており、私たちはその管理内容を具体的に学ぶことで、自然とふれあうこととした。

1) 自然災害や病気に弱い人工林にならないための間伐、ということで、この日は、樹齢約45年、直径約35cmのヒノキを間伐した。万一の事故に備え、3人以上での作業が基本であり、倒木方向からの避難が絶対と指導があった。伐木では、樹木の重心や周囲のあき空間、あとの搬出の利便、周辺の地形などを考慮し、倒木方向を決めた。そして、のこぎり、①受け口の下切り②受け口の斜め切り③追い口切りをいれ④追い口にくさびをいれる、という手順で伐木した。倒木を3.5mぐらいに切断し、皮をむき、子どもたちが鳥の巣箱作りに用いる製材用間伐材とした。人工林とはいえ、生木を伐採するチャンスはめったになく、木はなかなか切れなかったが息はすぐ切れ、超刺激的で興奮ひとしおであった。

昼食後、

2) 炭焼き場の見学 規模が小さいので大量生産はできないが、観賞用松ぼっくり炭や竹炭などもつくれるとのこ

と。朝8時から夕方までかかり、根気がいるとのこと。

3) マツ枯れ防止対策の実験見学 マツの木から1mぐらいの周りを掘り、炭を撒き、菌根菌による根張り強化の実験

4) カシノナガキクイムシの攻撃を受け、樹木に穴をあけられたナラの木の観察など

このほか、わさび田の実験地を見たり、キノコ採りを楽しみ、錦秋ちかい

楊梅の滝を巡り、てんこ盛りの活動内容であった。

植林をはじめ緑との関わりは、実践的には、体力的にも時間的にも本当に困難が伴うことを実感した。でもまた、チャレンジしたい。



交替でノコをひき樹齢約45年のヒノキを伐採。

参加者
募集

GEN自然と親しむ会

無煙炭化器で炭作りとバーベキュー

昨年は無煙炭化器を使って2回の炭焼きに挑戦しました。第3回目の今回はできあがった炭を使ってバーベキューをします。炭の材料は周囲の枯れ枝、流木を集めて使うので、清掃にもなります。

今年最後の自然と親しむ会です。バーベキューを食べながら、交流を楽しみましょう。

●日時：2011年12月3日(土)10時から15時ぐらいまで

●場所：大阪府豊能町初谷溪谷

●集合：能勢電鉄「妙見口」駅前に10時

●参加費：200円(保険料を含む)

●持ち物：バーベキューの食材を各自持参、主食、飲み物、敷物、作業のできる服装、軍手、雨具、あればノコギリ

●申込み：11月30日(水)までにGEN事務所へ氏名・年齢・連絡先をお知らせください。

※雨天中止

いろいろな人が、気楽に～ ツアーの魅力それぞれ

2011 年夏の大同

今年の夏は GEN ツアー他 5 つの団が大同を訪問し、緑化活動に参加しました。8/16～26 の専門家派遣 (8 名) から始まり、8/20～26 GEN 夏スタディツアー (19 名)、8/28～9/2 イオン・サントリー労組合同ツアー (19 名)、8/30～9/7 専門家派遣 (10 名)、9/8～12 大阪市 RR 厚生会 (8 名) と続きました。遅くなりましたが、GEN のツアー日誌抜粋と、協力団体からの報告を掲載します。

【8月21日(日)】

●今日の午前は、天鎮県三十里鋪郷の孫家店村で小学校希望果樹園にての植樹作業。夏休みの日曜日にもかかわらず、近くの子どもたちが十数名手伝ってくれた。参加者もスコップを持って穴を掘り、全員で 30 本ほどの杏の苗木を植えることができました。植樹とはいっても所詮は「まねごと」ですが、植えた苗木が大きく育つことを祈ります。

午後は万里の長城へ出かけました。北京郊外のものとは違って、土でできたもので、時代を感じさせてくれました。上まで登るのは少ししんどかったのですが、眺めはとてもよかったです。しかし、攻めるも防ぐも、こんな山の上が接点とは、なんと大変なことだろうと思う。生活をかけた戦いとはいえ、「戦う」ということはしんどいことなの



李二口の万里の長城。



子どもたちとアンズを植える。

だと思う。(佐藤雅美)

【8月22日(月)】

●ツアー 3 日目。朝は涼しくて、少し寒いくらいだった。朝食へ向かう。品数では雲崗国際酒店に劣るものの、うどん？ と肉まん？ ととてもおいしかった。ホテルを出発し、大泉山村へ。マツの植樹をした。今回は補植ということで、5、6 本の苗木を植えた。この中で何本くらいが順調に育ってくれるだろうか。以前植えてあった苗を見て思った。

昼食をとり、村に戻って山を歩いた。案内の女性と中国語で少しだけだが、会話ができたのでよかった。また、村のふつうの家を見学できたのはとてもいい経験だった。

雲崗国際酒店へ移動。今日は楠森さんと同じ部屋だった。夕食では、人生の先輩たちからさまざまな話が聞けました。分からないことが多々ありましたが…。

夕食後、長坂さん、楠森さん、立崎さん、中田さんといっしょにホテルのまわりを歩いた。平日の夜とは思えないにぎやかさにすこし驚いた。最後は 5 人でアイスを食べた。楠森さん、ごちそうさまでした。

今回初めてのツアー参加だったが、とても充実していると思う。明日もがんばろう！(林田大和)

●今回は、昨年の春のツアーに続き、2 回目の参加だった。前は、初めて見るものが多すぎて、ただ驚くことばかりだったが、今回は同じものを見ても、感心したり、疑問に思ったりして、感じ方がかわっていた。さらに回数を重ねていけば、より理解が深まるのではないかと考えた。このツアーに参加する理由として、中国に興味があることはもちろんだが、高見さん

を中心として、集まる様々な方々に会いたいというのも大きな理由である。学生のときの友人や職場での人間関係にとらわれず、いろいろな人の話を聞き、視野を広げて、できれば仕事のヒントも得たい。今回のツアーの参加者のみなさんとは、ぜひまたお会いしたいし、これからどんな人に出会えるのか、楽しみに思う。また、高見さんほどでなくても、私もこれからの人生の中で何か成し遂げたといえることをしたいと思う。(立崎祥子)

【8月23日(火)】

●今日は采涼山、カササギの森ということで、朝からワクワクしている。(中略) 行けるのを楽しみにしていたというより、今回の目的の新しいセンターに行くことができ、そして元気なコックさんに会えてものすごくうれしかった。名前を呼んで、駆けてきてくれたコックさん、おいしい昼食をありがとう。

3 月 11 日の震災では、全国、世界中から支援をいただき、大同の村からも思いがけない金額が寄せられた。一人ひとりにお礼を言うことも、恩返しをすることもできないので、地球に恩返しをしようということで、このツアーに参加するつもりでいた。ところが事情により、大同滞在が 2 日だけになってしまい、作業に参加できなくなってしまった。その分は来年の夏ががんばるということで、今年は黄土高原で流す



緑の地球環境センターに植える薬草をもとめてカササギの森の上流域へ。



はずだった“いい汗”は仮設住宅で流したということで勘弁してもらおう。(佐々木陽子)

【8月24日(水)】

●昼食を食べた後は、緑の地球環境センターを見学した。ここは大同中で一番風水がいい場所だとか、お墓が50基ぐらいあったとか、胞子液をまいたあとにマツを植えるのだとかいう話を聞いた。その後、高見さんが「若い力のあるひと、スコップと昨日採った薬草とってきて」と言われたので、林田さん、西浦さん、由澤さん、長坂健司さんと「またですか」とか言いながらとりにいったが、畑を最初に掘りだしたのは、加藤さんと楠森さんでした。2時間ぐらいで、4、5枚の畑に植えた。佐藤さんが「この人数でこんだけしかできないんだね。」と言っていた。



カササギの森で採取した薬草を植える。

その後、バスに乗り市場に行った。建物の中は隙間なく品物が置かれ、香辛料や魚のにおいであふれていた。魚や肉が冷やすわけでもなく、そのまま置いてあったのには驚いた。

これで今日は終わり。あとはごはんとお風呂だけ。(寺田健一郎)

【8月25日(木)】

●雲崗石窟の場内を見学中、滋賀大学の考古学の先生が引率する見学ツアーの団体と出会い雑談をしたが、団体を案内していた中国人のガイドが私たち緑の地球ネットワーク、とくに高見さんをよく知っており、GENは山西省の緑化によくつくってくれていて山西省、大同市の人たちはみな感謝していることを説明してくれ我々も気をよくする。

最終の見学場所から出口まで約1kmほどあり、電気自動車等有料で送り迎



市場のお肉屋さん。

えはしているが歩くのはたいへんである。みやげ物などの売店も以前は屋台で声をはりあげて呼び込んでいたがいまは屋内にひっこみ、なんだか上品になったような気がする。(楠森至朗)

●反省会ではいろいろな意見が出ていましたが、私としてはあまりむずかしい気持ちを持って参加しているわけではないので、今回のスケジュールは満足しています。植物に興味のある人、環境に興味のある人、人間関係に興味のある人 etc. いろいろな人が参加することにこのツアーの意義があるのではないのでしょうか。

私のようなまったくの素人でも専門家の人々の話は大変おもしろかったし、少しずつ興味もでてきます。スタッフのみなさまは大変だとは思いますが、あまり固く考えずに、気楽に参加できるツアーにしていいただければ、また参加してみたいと思っています。(長坂義郎)

中国黄土高原ツアー参加報告

山中 裕子 (イオンリテールワークスユニオン事務局)

毎年4月に恒例としていたツアーが東日本大震災により延期となり、今年度は8月27日～9月2日の7日間(前泊ふくむ)でツアーを決行し、サントリー労働組合と合同による総勢19名にてツアーに参加いたしました。

今年のツアーは、「人との交流を通して自然や環境について考え、知らない自分を知る7日間」と位置づけ、参加者(自分を含め)・会社・労働組合の活動・日中の歴史、そしてGENの活動をあらためて知る機会とし、それぞれ日別・チーム別にテーマを決め活動の目標達成に向けて活動しました。

私自身、2008年参加以来、2回目のツアーの参加となりましたが、大同市内のめまぐるしい環境の変化に目を見

張るものがありましたし、黄土高原も、地道な活動により確実に緑化への再生が人も自然も介して未来につながる景色につながっていることをこの目で確かめることができました。改めてこれまで携わってくださった諸先輩のみなさまの活動に感動がこみ上げてきました。

高見先生がツアーの中でおっしゃっていた、「人が手を加えたものは、人が介するしかない」「地球は生き物」「身近な習慣から変える」という3つのお話から、私たちが今後の活動にどうかかわり、そして身近な活動(日常生活)にどうつなげていくのかを改めて考える機会となりました。まさに、「木を植えるだけが植樹活動ではない」ど

んな場面でも自然とのつながりを考えたり、ふれたり、感じたりすることを通じて自分ができることを継続して行動していきたいと考えます。今回のツアーにご尽力いただいた高見先生はじめ、GENの事務局のみなさま、現地のみなさま、そして縁あって一緒に活動した参加者のみなさんに感謝いたします。お世話になりました。そしてこれから一人ひとりが決意した活動を地道に行動していきましょう。



上北泉村の険しい斜面でマツを植えた。

復興に働くメンバーに後押しされて

イオンリテールワーカーズユニオン様と合同で毎年4月に中国黄土高原緑化ワーキングセミナーを実施していましたが、今年は東日本大震災直後で見合わせざるをえなくなりました。すでに参加者が決まっていたこともあり大変残念なことでした。その中には、まさに仙台で被災した人もいて、「中止は非常に残念ですが今私ができることは、第2の故郷東北の復興のために全力を注ぐことだと思いますので、仙台で頑張りたいと思います。今回の地震被害で日本のみならず海外の方がこちらで救援作業をおこなってくださいます。また落ち着いた後、機会がありましたらぜひ植林という形で、私も恩返しをさせていただきたいと思っています」というコメントを送ってくれました。このことも後押しとなってこの夏に黄土高原に赴けたことは大変有意義

大村 高史（サントリー労働組合）

なことであつたと思っています。

日本中の目が東北に向けられている状況で、当初はどれぐらいの人が集まってくれるか心配でしたが、サントリー労働組合から7名、イオンリテールワーカーズユニオンから12名と総勢19名のほり、若手から年配の方まで、とても活気のあるにぎやかなツアーとなりました。

春に比べて植樹をおこなう機会は少なかったものの、『上北泉村』での記念植樹、『南天門自然植物園』での植物採集、新しい『緑の地球環境センター』や『かささぎの森』の見学など、自然や環境について考える機会を得ることができました。それ以外にも、高見先生から大同市やGENの活動の歴史について丁寧にご教授くださり、民家への訪問や現地の小学生との交流、雲崗石窟や万人坑の見学など、本当に盛りだ



大同事務所の魏生学さんと。左が大村さん。

くさんの経験をさせていただきました。

日本とはまったく違う広大な黄土高原の環境の中で、参加したメンバー一人ひとりが、人との交流や植樹体験などをとおして自らの価値観を大きく広げ、日常にはない何かを感じとることができた、そんな7日間になったのではないかと思います。

これだけの貴重な経験をさせていただいたGENさんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。こうした思いを忘れずに、今後もしっかりと活動を継続していきたいと思っています。

黄土高原緑化事業視察・体験ツアーを実施して

富永 猛（社団法人大阪市 RR 厚生会理事）

社団法人大阪市 RR 厚生会は、正式名称は「大阪市 REACHED RETIREMENT（大阪市停年退職者厚生会）」という。1955年に大阪市が「55歳実質定年制」を導入し、退職を余儀なくされた退職者が相互扶助組織として1960年に結成し、65年に社団法人化したものです。国は公益法人制度を改革し、既存法人は2013年度までに新公益法人への移行が義務づけられた。RR厚生会は、「一般社団法人」への移行を準備していますが、移行の認可基準として法人の移行時の純資産額で公益目的事業を実施することとされています。RR厚生会は、



緑の地球環境センターでトウヒを記念植樹。

本年度通常総会で、新たな公益目的事業として、地球環境保護、国際協力の観点から「黄土高原緑化事業」を検討することを決定し、今回はそのための「視察・体験ツアー」として実施しました。

日程は、9月8日から12日の4泊5日、参加者は最高齢80歳をはじめ平均年齢70歳の8人でした。北京から山西省大同市へ入り、GEN・大同事務所の案内

で「環境林センター」「采涼山プロジェクト」「かささぎの森」「緑の地球環境センター」を視察しました。黄河流域での土砂流出は年間16億トンで、これは幅1m・高さ1mの堤防が長さ108万kmで、赤道27周分に相当すると聞き、驚きでした。建設中の「緑の地球環境センター」の前庭で記念植樹をおこないました。帰国後、理事会で報告し、次年度から一般社団法人移行手続きに入るので、正式事業として推進することを確認しました。

予告 2012 春の黄土高原ワーキングツアー

植樹の適期を迎える4月の大同で、村の人たちといっしょに木を植えませんか。

詳細は未定ですが、とりあえず日程をお知らせいたします。緑の地球環境センターもいよいよ充実。新しいステップに踏み出しつつある大同での緑化協力、目が離せません。

●日程：2012年4月7日（土）～13日（金）
6泊7日

●訪問地：中国山西省大同市（北京経由）

●費用：未定（昨年実績135,000円 関西空港発着）

*別途付随費用あり。GEN年会費は別途。

●定員：35名程度

●最少催行人員：12名

次号で詳しくご案内します。そろそろ…とお考えの方、スケジュールをあけておいてください。

黄土高原史話〈56〉

雲崗石窟博物館

今夏ワーキング・ツアーの最終日、雲崗石窟の説明は現地ガイドの某氏、いささか頼りない日本語だったとか。それもあって参観には前回拙文が役立った、とツアー同行の GEN 事務所河本さんの話。久しく木を植えに行っていないかもしれませんが、このシリーズ、本誌の埋め草くらいにはなっているかも？

今回の準備として、李凭著『北魏平城時代』（社会科学文献出版社、2000 年）など披見のおりしも、『朝日』紙 10 月 26 日の文化欄に記事あり、「世界遺産に歴史の影」「中国・雲岡石窟 周辺に博物館整備」「日本人の学術調査 展示で触れず」と。

取材した永井靖二記者によれば、「雲岡が世界に知られるようになった経緯に、日本の研究者が深く関わっている」と雲岡石窟研究院の張焯院長は説明するが、博物館に展示された年表には、日本の調査にまつわる記述なし。担当職員は「一般の人からの反発も予想されるので…」と言葉を濁した、と。

本誌は 50 部ほど中国に送られているようですが、読者はおそらく「一般の人」ではないだろう。そこで上記の「経緯」について一言するなら。

雲崗石窟を再発見したのは、東大建築学科の伊東忠太。

谷口 義介（GEN 会員）

1902 年から 3 年間、中国・インド・西アジアを踏査したおり訪れて、その学術的重要性を指摘したのに始まります。これを承けて 07 年、フランスの F. シャバンヌが多くの写真を撮影し、石窟番号をつけて、09～15 年『北中国考古図録』を発表。ついで 17 年には、大村西崖が文献と図版を多用して『支那美術史雕塑篇』を出しました。

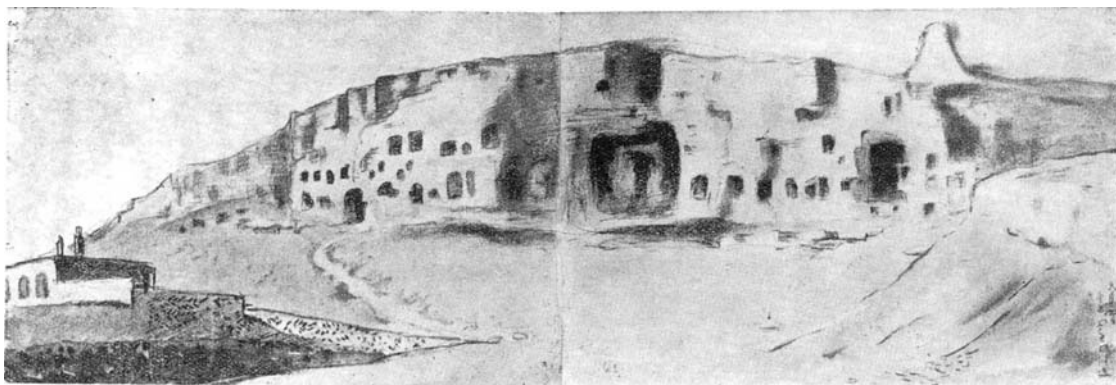
ところで清代にはその学術的価値が認められることはなかったが、民国期に入って 1920 年、陳垣が『東方雑誌』に「記大同武州石窟寺」を登載し、種々考証を加えている。伊東教授の論文に刺激を受けたものらしい。

同じ 1920 年、詩人としても有名で美術史にも造詣が深い東北大・東大医学部の木下杢太郎（本名・太田正雄）は、洋画家の木村荘八と共にこの地に滞在。十数日間石窟内に籠って、仏像の写生・撮影・拓本取り、石窟の平面実測もしています。参考までに、木下杢太郎著『大同石窟寺』（座右宝刊行会、1938 年）から、

同氏の手になる西側諸窟の挿絵を一枚。

しかし、それまでの研究に画期を与えたのは、なんといっても 1926 年の関野貞・常盤大定『支那仏教史蹟』巻二。現在も使われている石窟番号は同書に拠る。つまり世界的に雲崗の存在が知られるようになったのは 20 年代で、その役割を主に担ったのは日本の研究者というわけだ。

このあと 1938～44 年の間、東方文化研究所（現・京大人文研）は水野清一を隊長として調査団を数回派遣。撮影・実測・拓本・小発掘による厳密な考古学的調査がなされます。もちろん、このころ山西省を占領していた日本軍のガードの下ですが。当時、雲崗石窟寺は廃寺に近い状態で、仏像は次々と破壊、持ち去られていて、石窟内は隣接する農家が土間として利用していたとか。調査中の苦労話など詳しくは、参加した長廣敏雄の著書『雲岡日記ー大戦中の仏教石窟調査』（NHK ブックス、1988 年）をご参照あれ。調査団は 51～56 年、戦後の物不足とひもじさに耐えながら、『雲岡石窟』16 巻 32 冊を刊行。「雲岡石窟の研究に確固たる基礎を置く世界的大著」として高い評価を得た。

**本の紹介**

『有機農業による社会デザイン 文明・風土・地域・共同体から考える』本野一郎著／現代書館／2,200 円＋税

農協の営農指導員として、早くから有機農業を指導してきた本野さんの新著です。農業の現場で農薬の害を目の当たりにしてきた本野さんは有機農業に着目。40 年にわたって取り組んできた有機農業を、本書でさまざまな視点

から論じています。

本野さんが実際に確かめてこられた中国やヨーロッパ、そして日本各地の農業の実態をふまえ、また遺伝子組み換えなど最新事情もまじえながら、有機農業の実際と可能性が語られます。

今年 1 月、自然と親しむ会で本野さんに案内していただいた神戸の農家での体験を思い出しながら、ページをめくりました。



2011・国際森林年

情報ひろば
いうんかたち

2012年度(第10期)
自然環境市民大学

1年間、いっしょに自然環境の保全について学び、取り組んでみませんか。

- 期間：2012年4月～2013年3月(38回+特別。原則水曜日開催、一部他曜日もあり)
- 定員：30人(先着順)
- 受講料：55,000円(分割可。協会会費別途)
- 日程(予定。調整中の日もあり)
2012年4月11日/18日/25日/5月2日/12日/23日/30日/6月6日/13日/23日/30日/7月4日/11日/18日/25日/8月1日/8日/29日/9月12日/19日/26日/10月6日/10日/17日/27日/11月7日/14日/16日/12月5日/8日/19日/2013年1月16日/23日/30日/2月6日/13日/20日/27日/3月6日/13日
- 講師：高田直俊氏(大阪市立大学名誉教授)、伊藤孝美氏(大阪府農業大学校講師)、佐藤治雄氏(大阪府立大学名誉教授)ほか
- 申込み方法：氏名(よみがな)/性別/年齢/住所/電話・FAX番号、携帯電話番号/E-mailアドレス/保全協会の会員か否かを明記してE-mail、FAX、郵送で下記まで。
- 主催・問合せ・申込み：(社)大

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

阪自然環境保全協会市民大学係
(〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202号 Tel. 06-6242-8720 Fax. 06-6881-8103
E-mail: office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp)

第18期自然大学
受講生募集中

自然と環境を学び、考える市民大学です。室内講義7回、野外実習7回。

- 期間：2012年4月8日～2013年3月17日
- 募集生徒数：50人(18歳以上。先着順)
- 受講料：35,000円(野外実習経費等別途)
- 申込み方法：氏名(ふりがな)、生年月日、性別、職業、住所、電話番号、FAX番号、趣味・特技を明記の上下記までE-mail、FAX、郵送で。
- 主催・申込先：NPO法人自然と緑(〒537-0025 大阪市東成区中道3-2-34 Tel. 06-6978-5060 Fax. 06-6978-5061 E-mail: sizen_mi@osb.att.ne.jp URL http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/)
- 日程(原則日曜日、一部他曜日あり)
2012年4月8日/22日/5月13日/27日/6月10日/7月8日/8月19日/9月23日/10月13日/14日/11月17日/12月16日/2013年1月13日/2月10日/3月

17日

●講師：只木良也氏(自然大学学長、名古屋大学名誉教授)、小川眞氏(大阪工業大学客員教授)、渡辺弘之氏(京都大学名誉教授)ほか

年末年始の贈答に好評
甲浦ポンカンをどうぞ!

★甲浦ポンカン(低農薬・動物性有機肥料のみ使用)

【歳暮・贈答用化粧箱入り】

A	2L/3L	5kg	30個前後	4,000円
B	2L/3L	3kg	20〃	2,600円
C	L	5kg	35〃	3,500円

【普通箱入り】

D	2L/3L	5kg	30〃	3,700円
E	2L/3L	3kg	20〃	2,300円
F	L	5kg	35〃	3,200円

【家庭用。出荷は12月20日から】

G	5kg	33〃	2,600円
ゆず酢	4合瓶2本入り		4,000円

※出荷：12月7日～2月下旬

※送料別途。20kgまで関西630円、関東・甲信越840円。

★ご注文は

〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 田中農園 田中隆一さん(tel/fax 0887-29-2500 E-mail: tanakan@quolia.ne.jp)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は一言「GENの紹介」と添えてください。